

## V207b 西はりま天文台「なゆた望遠鏡」の運用

伊藤 洋一, ほか西はりま天文台スタッフ (兵庫県立大学)

西はりま天文台は、日本最大級の光学赤外線望遠鏡「なゆた望遠鏡」を主力機器として、教育研究活動と生涯学習事業を積極的に推進している。「なゆた望遠鏡」には、可視光分光装置・近赤外線撮像装置・可視光同時偏光撮像分光装置などの装置がある。これらの装置は定常的に運用されており、晴れれば毎晩、天文台スタッフが研究観測を行っている。また、東京大学が開発した狭帯域撮像分光装置 LISS も PI 装置として活躍している。さらに、ハワイ大学 2.2m 望遠鏡に搭載され多くの日本人にも使われた可視光分光器 WFGS2 を、2017 年に西はりま天文台に移設した。現在はこの装置の改修を進めており、近い将来には「なゆた望遠鏡」の主力装置のひとつとなるだろう。

兵庫県立大学天文科学センターは、2016 年度から文部科学省の「共同利用・共同研究拠点」に認定された。これに伴い、共同利用観測を開始した。プロポーザルを年二回募集し、外部の研究者を含めたレフェリーの審査に基づき、年間 50 夜を共同利用観測に割り当てている。日本国内の大学や研究所からはもとより、海外からの応募もあり、「なゆた望遠鏡」を用いた観測の需要に適切に対処できていると考える。

講演では、共同利用拠点形成期のこの 3 年間の活動を総括する。共同利用観測をはじめとする研究観測の現状を述べ、併せて観測装置などの将来計画についても議論したい。